令和３年度第２回千葉市生涯学習審議会議事録

１　**日時**　令和３年１２月２３日（木）
　　午後２時００分から午後４時００分まで

２　**場所**　千葉ポートサイドタワー６階　６０１号会議室

３　**出席者**
（１）委員
　岩切　裕会長、菊池　まり副会長、阿久津　勝利委員、浅井　経子委員、綾部　輝幸委員、伊藤　節治委員、伊藤　美香委員、岩崎　久美子委員、岩瀬　博行委員、佐々木　淳一委員、萩原　博委員、

（２）事務局
　佐々木　敏春生涯学習部長、中島　千恵中央図書館長、小倉　とも子生涯学習振興課長、佐久間　仁央文化財課長、上田　昌弘生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長、石田　信之生涯学習振興課統括管理主事、木村　隆之生涯学習振興課管理主事、積田　浩二生涯学習科学教育班主査、藤山　尊史放課後こども対策班主査、野中　智史管理班主査、岡本　大輝管理班主事

４　**議題**
（１）第６次生涯学習推進計画策定について

５　**議事概要**
（１）　第６次生涯学習推進計画策定について
　　事務局が説明し、各委員から意見を聴いた。

６　**会議経過**
　議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開及び議事録の承認方法、会議の成立を行った。

（１）第６次生涯学習推進計画策定について

○（岩切会長）
　それでは、これより議事を始めさせていただきます。
　まず初めに、「議題１　第６次生涯学習推進計画策定について」でございます。事務局より説明をお願いします。

○（小倉生涯学習振興課長）
　生涯学習振興課の小倉でございます。

　議題１「第６次千葉市生涯学習推進計画策定」について、ご説明させていただきます。

第６次計画の策定につきましては、今年７月２７日に開催しました令和３年度第１回生涯学習審議会において、策定基本方針をご説明した際に頂いたご意見を踏まえ、「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」を作成いたしました。本日は、この「施策骨子（案）」について、ご審議いただきたいと思います。

なお、「【参考資料１】千葉市生涯学習市民意識調査（個人向け調査）」と、「【参考資料２】千葉市生涯学習関係団体調査（団体向け調査）」の、それぞれの速報値を単純集計した資料を併せて配付させていただきました。

それでは、まず、全体の流れとして、策定スケジュールを確認させていただきます。お手持ちの資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の２１ページをご覧ください。

「１２　策定スケジュール」ですが、今年７月の生涯学習審議会で諮問させていただき、策定基本方針（案）へのご意見をいただきました。今回、本日の審議会でより具体的な施策骨子（案）へのご意見をいただきたいと思います。その後、令和４年３月頃の審議会で計画原案、７月頃の審議会で計画案をまとめたいと考えております。その後、教育委員協議会や市の政策会議、パブリックコメント等のご意見を反映の上、令和４年１１月頃に開催を予定しております審議会で答申をお願いしたいと考えております。なお、この策定スケジュールは予定ですので、今後、必要に応じて変更する場合がございます。

それでは、資料の１ページにお戻りください。「１　生涯学習の理念」ですが、基本方針（案）では、「意味」「種類」「理念」として記載させていただいておりましたが、記載のとおり、まず「理念」を記載し、教育基本法第３条に規定されている旨追記いたしました。

次に、「２　計画の位置づけ」、次のページの「３　第５次千葉市生涯学習推進計画期間中の生涯学習の取組み」については、基本方針（案）と変わりございません。

３ページをご覧ください。「４　第６次千葉市生涯学習推進計画の対象期間」については、表中の表現を微修正しましたが、計画期間等の内容は基本方針（案）と変わりございません。

続きまして、４ページと、５ページの「５　第６次計画の検討の視点」、「６　第６次計画策定における留意点」については、基本方針（案）で頂いたご意見を、本日、主にご審議いただく「９施策体系の基本的な考え方」や今後作成する計画原案に反映させていただくため、変わりございません。

６ページをご覧ください。「７　生涯学習に関する市民の意識」についてです。「（１）調査概要」ですが、計画策定にあたり、生涯学習に対する基本的な意識・実態等を把握することを目的に千葉市生涯学習基礎調査を実施いたしました。

「ア　市民意識調査」については、無作為抽出した市民２，５００人に調査票を郵送し、郵送もしくはＷＥＢでご回答いただきました。調査は、令和３年１０月２７日から１１月１５日までの期間で実施し、回答者数は１，００６人、回答率は４０．２％でした。

「イ　関係団体調査」については、生涯学習センター、公民館、コミュニティセンター利用団体１，０００団体に調査票を窓口で配付し、郵送もしくはＷＥＢでご回答いただきました。調査は、令和３年１０月２８日から１１月２４日までの期間で実施し、回答団体数は７６７団体、回答率は７６．７％でした。

７ページをご覧ください。「（２）調査結果」ですが、現在分析中のため速報値

を抜粋して記載しております。
　まず、「ア　生涯学習の意識に関する調査結果」についてです。
「生涯学習活動の意義」、「生涯学習活動を行う上で最も重視していること」を質問しており、結果は表のとおりでございます。各設問の後ろのかっこ書きは、配付いたしました【参考資料１】、【参考資料２】のそれぞれの調査名と問番号を記載させていただきました。
　【概要】としては、生涯学習の意義については、「生きがいづくり」が３６％、「新しい知識・教養の習得」が２３％となっています。一方で「地域づくり・まちづくり」が４％となっています。また、生涯学習活動を行う上で最も重視しているのは、「人生を豊かにする」が４５％となっています。一方で「地域や社会全体との関りが深められる」が８％、「社会に貢献できる」が２％となっています。
　【考察】としては、生涯学習活動を個人の成長と捉える市民が多く、社会や地域との関りや貢献に対する意識が薄いことから、引き続き、生涯学習施策の充実を図る必要があると考えております。
　８ページをご覧ください。次に、今年７月の審議会でご意見をいただきました、３つの柱を「施策展開の方向性」とし、それぞれに関係する調査結果を記載させていただきました。
　「イ　施策展開の方向性１　学習活動のきっかけの提供に関する調査結果」についてです。「生涯学習に関する情報の入手先」の抜粋、「生涯学習活動に関する情報の充実度合い」、「施設を利用する理由」の抜粋、「生涯学習関連施設について、市が力を入れるべき点」、「５年前と比べた現在の千葉市の生涯学習施設の利用のしやすさ」を関連する質問として記載しました。結果は表のとおりでございます。
　９ページをご覧ください。【概要】としては、生涯学習に関する情報の入手先は「市政だより」、「インターネット、ＳＮＳ」が多くなっています。
また、情報の充実度合は、「感じない・どちらかといえば感じない」が２７％となっています。生涯学習施設を利用する理由は、「自宅から近いから」、「料金がかからないから、安いから」の他、「施設・設備が充実しているから」が多くなっています。生涯学習関連施設について市が力を入れるべき点は、「既存の施設・設備の充実」が１９％、「誰でも気軽に参加できる行事やイベントの充実」が１８％となっています。５年前と比べた利用のしやすさは「かなり利用しやすくなった・やや利用しやすくなった」が４３％となっています。
　【考察】としては、生涯学習情報が充実していないと感じる方が多いことや、生涯学習に関する情報入手のツールとしてインターネットをあげる方が多くなっていることから、インターネットやＳＮＳを活用した情報提供の充実を図る必要があります。また、だれでも気軽に参加できる行事やイベントのニーズもあることから、来館による啓発も有効と思われます。５年前と比べて施設が利用しやすくなったと感じる割合が高くなっていること、既存の施設・設備の充実が求められていることから、引き続き、学習環境の整備にも努めていく必要があります。
　１０ページをご覧ください。「ウ　施策展開の方向性２　多様な学習機会の確保に関する調査結果」についてです。「身近な地域のどのようなものに愛着を感じるか」、「千葉市の歴史や文化財への愛着度合い」、「今後の生涯学習活動意向」、「生涯学習事業について、市が力を入れるべき点」を関連する質問として記載しました。結果は表のとおりでございます。

また、「インターネットを利用しない割合」を、クロス集計による年代別の回答結果を記載しました。

１１ページをご覧ください。【概要】としては、身近な地域で愛着を感じているのは「川や森、林、海等の自然環境」、「公園、建物等の街並み」、「地元の農産物や製品」の順に多く、「郷土史、郷土文化・芸能」が１７％となっています。
また、市の歴史や文化財への愛着度合は、「感じる・どちらかといえば感じる」が４３％となっています。今後してみたい生涯学習活動は、趣味、健康に関することが多いですが、市民のニーズは幅広い分野にわたっており、「情報通信技術」、「自然災害」、「ボランティア活動」、「社会問題」等、現代的課題に関する分野についても多くの市民が活動の意向を示しています。

また、生涯学習事業について市が力を入れるべき点で、「文化・芸能を鑑賞する事業を増やす」が１８％、「インターネットを利用したオンライン講座を増やす」が１３％となっている一方で、「インターネットを利用しない」は７０歳代が３１％、８０歳以上が４４％となっています。
なお、６０歳代は９％、５０歳代は２％となっています。

【考察】としては、多くの市民が、市の歴史や文化財をはじめ、身近な地域のさまざまなものに愛着を感じており、引き続き、郷土への愛着を深めるための学習機会の提供に努めていきます。
また、市民のニーズを的確にとらえ、多くの方が必要とする幅広い分野の学習機会を提供していくとともに、オンライン講座の充実や高齢者のデジタルデバイドの解消等、急速に変化する社会環境に対応した学習機会の提供にも努める必要があります。

１２ページをご覧ください。「エ　施策展開の方向性３　学びを生かしたコミュニティづくりに関する調査結果」についてです。「学習成果の活用方法」、「学習成果の活用をしていない理由」の抜粋、「学習成果の活用頻度」、「住民同士が協力して地域の課題の解決等に取り組んでいると思うか」、「今後の生涯学習活動意向」の再掲を関連する質問として記載しました。結果は表のとおりでございます。

１３ページをご覧ください。【概要】としては、学習成果の活用方法は、「公民館文化祭・コミュニティまつり等、市の施設の文化祭等への参加」、「団体独自の体験教室・発表会・展示会等の実施」が多くなっています。また、「地域でのボランティア活動」が１３％となっています。一方で、「特にない」が２３％となっています。なお、活用していない理由は、「活動内容が発表等の活用に適さない」と考えている団体が４３％あります。学習成果の活用頻度は、「月２回以上」活用している団体が３４％あります。一方で、「年に１回程度」が３１％となっています。住民同士が協力して地域の課題の解決に取り組んでいると思うかについては、「思う・どちらかといえば思う」が２０％、「思わない・どちらかといえば思わない」が２９％、「どちらともいえない」が４７％となっています。
なお、今後してみたい生涯学習活動については趣味、健康に関することが多く、「ボランティア活動」は１３％、「地域活動」は７％となっています。

【考察】としては、学習成果が地域に十分に還元されているとは言えない結果となっており、引き続き、学習者・学習団体に対し、学んだ成果を地域に還元し、さまざまな課題の解決につなげていく意識の涵養を図る必要があります。
また、あわせて、生涯学習施設において地域活動の担い手となる人材の発掘や育

成、コーディネート等にも積極的に取り組み、地域課題解決のための環境づくりに努めていく必要があります。

１４ページをご覧ください。「８　第６次計画の全体像と柱の検討」については、基本方針（案）と変わりございません。

１５ページをご覧ください。「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」についてです。現在、本市で策定作業を進めている、市の次期基本計画である「（仮称）千葉市基本計画」の原案、前回の審議会で策定基本方針（案）について頂いたご意見、及び生涯学習基礎調査の結果を踏まえ、全体像と３つの柱である施策展開の方向性につながる、７つの基本施策の案を作成しました。

なお、表の中の各基本施策の一番右側に、現在の第５次計画からの変更概要を記載いたしました。また、参考で、次の１７ページに現在の第５次計画の考え方を添付しております。

まず、「施策展開の方向性１　学習活動のきっかけの提供」については、「（１）生涯学習の普及啓発」、「（２）学習環境の整備」を基本施策としました。

「（１）生涯学習の普及啓発」については、市民に学びの楽しさ、大切さに興味・関心を持ってもらえるよう、様々な機会を活用して情報を発信し、学習のきっかけづくりにつなげます。「（２）学習環境の整備」については、学びに興味を持った市民が学習活動をはじめるにあたって、快適で参加しやすく、新しい時代に合った学習環境の整備を行うとともに、子どもや若者が利用しやすい環境づくりに努めます。

次に「施策展開の方向性２　多様な学習機会の確保」については、「（３）郷土への愛着を深める学習機会の提供」、「（４）市民ニーズに対応した学習機会の提供」、「（５）現代的課題に対応する学習機会の提供」を基本施策としました。

「（３）郷土への愛着を深める学習機会の提供」については、郷土に対する理解と愛着を深めるため、市の歴史や文化資源を活用するとともに、地域に密着した資源も活用した学習機会を提供します。

「（４）市民ニーズに対応した学習機会の提供」については、多様化する社会において、多岐にわたる市民の学習ニーズに対応するとともに、人生１００年時代において高齢者や障害者、外国人も必要な時に必要な学びができる、幅広い分野にわたる学習機会を提供します。「（５）現代的課題に対応する学習機会の提供」については、急速に変化する社会において、新たな時代の課題に対応するとともに、生命や生活を守るための学習機会を提供します。

次に「施策展開の方向性３　学びを生かしたコミュニティづくり」については、「（６）地域の担い手となる人材の発掘・育成」、「（７）市民の参加・協働による学習成果の活用」を基本施策としました。

「（６）地域の担い手となる人材の発掘・育成」については、地域における学習活動の活発化を図るため、リーダーやボランティア等の人材を発掘・育成します。「（７）市民の参加・協働による学習成果の活用」については、学んだ成果が地域に還元され、様々な課題の解決につながるよう、活用方法や機会を提供します。

１７ページについては、割愛させていただき、１９ページをご覧ください。

「１０　ＰＤＣＡサイクルに基づく計画の点検・評価」については変わりございません。

２０ページをご覧ください。「１１　策定体制」については「（３）市民意見の反映」について実施した概要を記載いたしました。他には変わりはございません。

次の２１ページの「策定スケジュール」については、冒頭にご説明したとおりでございます。
今回は、１５ページの「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」を中心にご意見を伺えたらと存じます。
説明は以上でございます。審議くださいますよう、よろしくお願いいたします

○（岩切会長）
ありがとうございます。ただいま説明がありましたが、内容は大きく２つございます。１つは千葉市生涯学習市民意識調査についてのご報告がございました。もう１つは、第６次生涯学習推進計画の全体像と柱で、これが本日のメインになるところだと思いますので、ここに時間をかけていきたいのですが、せっかく事務局より市民意識調査の報告もございましたので、まずはこのことについて委員の皆さん方ご意見やご感想等ございますでしょうか。

○（萩原委員）
調査対象者の属性や分類はどのようになっているのでしょうか。

○（小倉生涯学習振興課長）
現在は単純集計のみの報告になりますので、詳細な調査結果はまとめられていないのですが、今後クロス集計等の分析を行った上で調査報告書をまとめ、次回の審議会の際にお配りしたいと考えております。

○（岩切会長）
ありがとうございます。まだ調査を行ってから時間が経っておりませんので、詳細な報告は次回ということですね。

○（浅井委員）
【参考資料１】「千葉市生涯学習市民意識調査」の９ページ、１０ページにある回答者の年齢や職業の割合をみますと、高齢者や非就労者の方が多く回答しているように見受けられます。ですので、調査結果は市民全体の意見を反映したというよりも、どちらかというと高齢者や非就労者の方に傾いた結果として見た方がよいのではないかと思います。

○（小倉課長）
ありがとうございます。現在生涯学習を行っている方の年齢層としては、比較的高齢者の方が多いのだろうと考えています。就労の有無等、具体的にどのような高齢者が生涯学習を行っているのか明確にしたいと考えております。

○（浅井委員）
高齢者を中心としたものとして生涯学習の推進を行っていくという考えではないですよね。

○（小倉生涯学習振興課長）
そうではなく、今後は若者や子どもたちも取り込んでいきたいと考えています。

○（岩崎委員）
【参考資料１】「千葉市生涯学習市民意識調査」の１ページの「問１　生涯学習活動はこれからの時代にどのような意義があると思いますか」では、その人の生涯学習の目的を尋ねているものだと思いますが、選択肢１，３，４の生きがいづくりや仲間づくり的なものと、選択肢２，５の知識技能の習得と、選択肢６の地域づくりの３つに大きく分類できると感じました。
生涯学習は、１９９０年以降のグローバリゼーションの影響により、職業系にシフトしているという現状がありますので、地域に根差した生涯学習という意味では、この選択肢１，３，４や６の生きがいづくりや仲間づくり、地域づくりが施策として重要視されるといいと思います。
選択肢２や５の知識や技能的な部分に関しては、最近千葉市が行っている習い事応援キャンペーンで支援していければいいのではと感じました。
また、【参考資料１】「千葉市生涯学習市民意識調査」の４ページの問９と５ページの問１２に関して、問１２の今後利用してみたい施設の各施設の数値から問９の実際に利用した施設の数値を引くと、利用したいけど実際には利用していないという潜在層の割合が出てくるのではないかと推測されます。そうした仮定において回答結果を参照すると、選択肢８の「花の美術館、都市緑化植物園」や、選択肢１３の「体育館・プール等の公共スポーツ施設」、選択肢４の「図書館」は問９と問１２の回答のポイント差が大きく、魅力は感じているが利用していない人が多い施設であると考えられます。一方で、公民館はポイント差がほとんどないため、もっと公民館を活用していき、魅力のあるものにしていくべきだと感じました。

○（岩切会長）
ありがとうございます。他にないようであれば、資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１４ページの「８　第６次計画の全体像と柱」に移りたいと思います。何かご意見ございますでしょうか。

○（萩原委員）
資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１４ページ「８　第６次計画の全体像と柱」の目標の文言で「新しい時代」という言葉について、事務局はどういうイメージを持っているのでしょうか。また、「活力あるコミュニティ」とはどのようなコミュニティなのか、事務局の考えをお聞きしたいです。

○（小倉生涯学習振興課長）
まず、「新しい時代」についてですが、昨今では、新型コロナウィルスの影響で、対面での講座を行うことが難しくなっている一方で、オンライン講座が充実してきているような状況にあります。また、ＩＣＴ機器を活用した生涯学習が行われる中で、デジタルデバイド等の問題も起こっています。こうした点が、これまでの時代とは違う「新しい時代」であると考えています。
次に、「活力あるコミュニティ」についてですが、生涯学習で学んだ成果を、個人の成長のみならず、地域に還元することで、地域の中で新たな繋がりを生み出すことができ、ひいては地域の課題を地域で解決できるようなコミュニティが活

力あるコミュニティであると考えています。

○（萩原委員）
　市として生涯学習を推進する根底として、具体的に千葉市はどういう社会をつくっていきたいかという文言を目標として取り入れてもらえたらと思います。

○（岩切委員）
　「新しい時代」について具体的なイメージを持っていただいて、生涯学習における千葉市らしい取り組みを明確にできればいいということですね。

○（佐々木生涯学習部長）
　内部で検討したときに、「新しい時代」の具体例について目標に記載するという意見もありましたが、例示を挙げることで、意味合いが限定されてしまうことにもなりかねないので、包含的な表現となるよう、「新しい時代」という言葉にまとめさせていただきました。具体的な取り組み内容については今後検討していきたいと思います。

○（萩原委員）
　第６次生涯学習推進計画は１０年間の計画ですが、時代の移り変わりが早くなっているので、毎年新しい時代と言えてしまうのではないかと思います。もう少し具体的な文言があった方がいいのではないかという意見です。

○（阿久津委員）
　資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１４ページ「８　第６次計画の全体像と柱」の目標の文言で、「“安心で”活力あるコミュニティを形成できる」とありますが、文章表現としてどうなのでしょうか。
　同様に、１５ページの「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」の基本施策（４）の、「高齢者や障害者“も”」という表現に違和感を感じました。「すべての市民が」や「年齢やハンデの有無に関わらず」という表現の方が適切なのではないでしょうか。ご検討いただけたらと思います。

○（小倉生涯学習振興課長）
　前回の審議会の中で、高齢者や障害者、外国人と関係する機関も生涯学習に取り込むことができないかというご意見を頂いたため、強調する意図として記載しましたが、限定的な表現とならないよう、再度検討させていただきます。

○（阿久津委員）
　「安心で」というところについても、例えば「安心して暮らすことができる」というように使われればいいのではないかと思います。

○（佐々木生涯学習部長）
　ありがとうございます。表現については事務局で再度検討させていただきます。

○（伊藤（節）委員）
資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」の基本施策（２）で「子どもや若者が利用しやすい環境づくり」とありますが、どのようなイメージをお持ちなのでしょうか。調べたところによると、子育て世代が仲間づくりや話し合いができる居場所がほしいという要望があるようなのですが、子育て世代と生涯学習の関係がどうなっているのかお聞きしたいです。
次に、基本施策（３）に、「郷土に対する理解と愛着を深めるため、市の歴史や文化資源を活用する」とありますが、【参考資料１】「千葉市生涯学習市民意識調査」の９ページの問２３の「身近な地域のどのようなものに愛着を感じますか」という問いの回答結果を見ると、自然環境や街並みに愛着を感じている人が多いので、歴史や文化遺産だけではなく、そのあたりも基本施策の考え方に盛り込んだほうがいいのではないでしょうか。
また、郷土意識の醸成においては、子どもの頃からの学習機会の提供が重要だと考えますが、郷土学習において、学校教育と連携していることがあればお聞きしたいです。

○（小倉生涯学習振興課長）
子どもや若者が利用しやすい施設にするため、どのような環境づくりを行っていくかについては、アクションプランの中で具体的にお示しできればと思います。
また、自然環境や街並みへの愛着については、基本施策（３）の基本施策の考え方の「地域に密着した資源」という文言に含んでおります。

○（上田生涯学習振興課放課後対策担当課長）
子育て世帯が公民館を活用している一例として、一部の公民館では、ボランティアの方の協力のもと、子育て世代が公民館に集まり、子育ての心配事や悩みについてアドバイスをいただいたり、仲間づくりができたりする機会を提供する取り組みをしております。

○（佐久間文化財課長）
学校教育との連携についてですが、新型コロナウィルスの影響もあるため、今年度は難しいところもありましたが、郷土博物館や加曽利貝塚博物館を利用した学習が行われています。例えば、学校で鎌倉時代の学習を行う際に郷土博物館に来館をして、千葉氏について勉強する機会を提供したり、学校で使う副読本に、千葉氏についての内容を盛り込んだりしています。加曽利貝塚博物館についても同様に、縄文時代の学習の際に来館してもらっています。このように、子どもの頃に博物館に来ていただく機会を提供することが非常に大事だと考えております。
今後につきましては、学校教育と連携しまして、教材作りを進めていきたいと考えております。学校教育の側からは、実際に博物館に来館せずとも、学校の授業で活用できるような資料や、学習内容を深掘りしたいときに、使えるものはないかというお話をいただいているので、工夫していきたいと考えております。

○（伊藤（節）委員）
　自然環境や街並み等の地域資源についても、まち歩き等を取り入れ、学ぶ機会を提供していけるといいのではないかと思います。

○（綾部委員）
　資料１の１７ページの「第５次計画の施策体系の基本的な考え方」と１６ページの今回の第６次生涯学習推進計画を比較しますと、第５次生涯学習推進計画の基本施策（３）の基本施策の考え方では、「地域に対する理解と愛着を深める」と記載されているところが、第６次生涯学習推進計画では「郷土に対する理解と愛着を深める」と変更されています。郷土への愛着というと、元々千葉市に住んでいる方は郷土への愛着を持ちやすいと思いますが、新たに千葉市に移り住んでこられた方が持つことはなかなか難しいものだと思いますので、「郷土・地域に対する愛着」と記載した方がよいのかなと思います。
　また、第６次生涯学習推進計画の基本施策（５）の基本施策の考え方において、「生命や生活を守るための学習機会を提供」するとありますが、近年は自然災害やコロナウィルスで生命の危機を感じることが多くなっているので、意義のある内容だと思います。「生活を守る」については、デジタルデバイドや様々な弱い立場の方の生活を守るということも含まれていると思いますので、今後の具体的な施策で強く展開していただきたいと思います。

○（岩崎委員）
　資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」の基本施策（２）で使われている「子どもや若者も」という文言や、基本施策（４）の「高齢者や障害者、外国人も」という限定する言葉については、公平性の議論をもたらす可能性があるため、丁寧に考えなくてはならないと思います。誰もが参加できるということを強調したいのであれば、基本施策（２）であれば、「子どもや若者であっても主体的に」という言葉や、基本施策（４）であれば、「どのような状況にある人も」という言葉を使う方が適切ではないかと思います。また、基本施策（４）の基本的な考え方の「人生１００年時代」という言葉はあえて入れなくてもいいのではないでしょうか。
　次に、基本施策（６）に「リーダーやボランティア」とありますが、リーダーという言葉は現代の水平社会にはあまり馴染まないので、ファシリテーターといった方が現代のネットワーク社会のイメージに合うのではないでしょうか。

○（佐々木生涯学習部長）
　市民の方に誤解を招かないような表現を使うことは非常に大切だと考えておりますので、文言についてはしっかりと検討していきたいと思います。

○（萩原委員）
　資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの「９　第６次計画の施策体系の基本的な考え方」の基本施策（４）に「高齢者や障害者、外国人も」とありますが、これらの方々に限らず、一般市民の誰もが同じように機会が与えられるべきであるので、あえて限定して書く必要はないのではと思います。
　外国人の方については、日本に居住するにあたって、言語の壁がどうしても生

じてしまうので、どのように学習機会を提供するかについては今後考えていかないといけないと思います。
　次に、基本施策（６）に「リーダーやボランティア等の人材を発掘・育成します」という部分についてですが、人材発掘は生涯学習推進計画において、中心となるテーマの１つだと思います。ボランティアというと、無償で何でもやってもらえるという発想が見受けられますが、ボランティアは無償が前提ではないと思いますし、有償でボランティア活動を行うことで、活動がステップアップできている事例もありますので、ボランティアを活用する際には考えていただきたいと思います。
　また、千葉市のアイデンティティ形成についてですが、例えば千葉市の文化遺産について考えるときに、私たち自身が他県の方に対し、魅力を伝えることができないといけないのではないでしょうか。そのためには、まずは子どもたちに対して、学校教育を中心として、文化遺産について学ぶ機会を提供する必要があると思います。現在新加曽利貝塚博物館設立に向けて進められていますが、新しい博物館を作るまでのプロセスが生涯学習になっていると思いますので、積極的に活用してほしいと思います。

○（小倉生涯学習振興課長）
　ボランティア活動を活発化させるための方策については、頂いたご意見を参考にしながら、アクションプランの中で具体的に示せるように検討していきたいと思います。
　学校との連携についても非常に重要だと考えていますので、生涯学習と学校教育が連携を取りながら、双方が発展していけるように進めていきたいと思います。

○（浅井委員）
　資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの基本施策の（１）から（７）までをみて、第６次計画として取り組むべき課題としてはよく考えられているのではないかと思いますが、その課題を解決していくために、行政がどのように支援体制を作っていくのかが重要だと思います。例えば、ネットワーク形成について、生涯学習センターでは地域の公民館と連携して事業を行っていますが、こうしたネットワーク形成は行政が主体となって行うのではなく、個々の団体に任せるという判断なのでしょうか。
　また、学習支援については、学習の情報提供だけでなく相談事業が必要とされてくるかと思います。現段階では、課題を解決するための方法が抜けてしまっているところが気になりますので、今後検討していただければと思います。

○（小倉生涯学習振興課長）
　抱えている課題の具体的な解決方法の検討については、今後の課題だと考えています。生涯学習センターと公民館の連携については他の団体にも生かしていけるよう検証していきたいと考えています。

○（岩瀬委員）
　資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの基本施策の（２）の「子どもや若者が利用しやすい環境づくり」についてですが、ちょうど

昨日、本校の高校１年生の生徒が探究活動の時間で、千葉県の学力についての調べ学習の発表をしていたのですが、あるグループが、２０１９年の学力調査において、関東七県の中で、千葉県は１番点数が低かったということに着目して、その理由について考察し発表していました。その中で、千葉県は他県と比べると公共の学習施設が乏しいことが学力低下に繋がっているのではないかという意見があり、子どものときに科学館等の施設を積極的に利用することで、興味関心を持ち、それが学習意欲に結びつくのではないかという考察をしていました。

千葉市は公共の学習施設が少し寂しいのではないかと子たちたちは感じているようです。新しい施設を作るとなると、当然お金がかかってくるので、すぐに改善という訳にいかないと思いますが、今後アクションプランを立てていくときに、既存の学習施設を有効活用していきながら、なぜ利用者が増えないかというところも考えていただければと思います。

また学校と行政の連携として、市立千葉高等学校において行っている取り組みとしましては、ＳＤＧｓの学習の一環として、千葉市役所の各部局の方に来ていただき、千葉市行政についての講座を行っていただき、生徒たちに千葉市を理解してもらおうという取り組みを行っています。

子どもたちに生涯学習を進めていく上で、まずどういう子どもたちを育てたいのかというところが、施策の中で前面にでてくるとよいのではないかと思います。科学教育についても、各学校だけで行うのではなく、行政と連携し千葉市一体となって進める取り組みを生涯学習の枠の中でできるとよいのかなと思います。

○（菊池副会長）

先程浅井委員から学習相談について取り上げられたと思いますが、非常に大事な視点かと思います。市民の方が、何か地域の課題を解決したいと思ったときに、どういうふうに行えばよいのかということや、どういう視点でとらえたらいいのかということが学習者任せになってしまっており、結果として地域の課題として取り上げにくいような状況になっているかと思います。

公民館の毎年の活動をみると、相談事業が多く行われているようですが、学習に対する相談事業が乏しいように感じます。公民館で学習の相談事業を行うことをもっとアピールしていけば、市民が学びの悩みをどこにもっていけばいいか理解することができ、学びに対して積極的になるのではないかと思います。

○（小倉生涯学習振興課長）

学習相談については、公民館や生涯学習センターで行っている相談事業についてまだまだ周知が足りていないと感じていますので、市民の方が気軽に参加できるような行事やイベントに参加してもらう中で、生涯学習についてアピールしていきたいと思います。

○（綾部委員）

資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページに「学習成果の還元による地域課題解決の促進」とありますが、地域の課題を直接解決するような学習というのは、かなり生涯学習を限定することになってしまうのではないでしょうか。学習が直接地域課題の解決に繋がらなくとも、活動を行うことで、結果的に地域の活性化につながるようなことがあると思いますので、地域の活性化

を通して地域課題の解決につながるというような文言の方がよいのではないかと思います。第５次生涯学習推進計画では、「学習活動の成果が地域社会で生きる」という書き方になっているので、これくらいの書き方が市民の感覚からすると理解しやすいかなと思います。

同様に、資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の「７　生涯学習に関する市民の意識について」の７ページの「（２）調査結果」の考察のところで、「生涯学習活動を個人の成長と捉える市民が多く、社会や地域との関りや貢献に対する意識が薄いことから、引き続き生涯学習施策の充実を図る必要がある」とありますが、生涯学習活動の意義について、社会や地域との関りや貢献に対する意識が「薄い」というネガティブに捉えるのはどうなのかと思いますし、なぜ生涯学習が地域の活性化や地域課題の解決につながるかということが、あまり共通理解として市民に広まっていないと思うので、そのあたりを丁寧に説明していただく必要があるかなと思いました。

○（小倉生涯学習振興課長）

資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページの「学習成果の還元による地域課題解決の促進」については、現在策定を進めている（仮称）千葉市基本計画の原案の中で、示されている文言ですので、そちらの事務局にただいまのご意見をお伝えしていきたいと考えています。

調査結果の考察の表現については、生涯学習が地域の課題解決につながるということが市民の方に伝えられるような文言に修正したいと思います。

○（浅井委員）

若者をはじめとして、職業的な能力の向上や資格取得に関する学習意欲が高まってきており、生涯学習センターでも職業能力関係の講座が取り入れられています。第６次生涯学習推進計画の中でも職業的な能力について触れることで、生涯学習の立場から職業的な能力の向上の可能性を探ることはできないのでしょうか。

○（小倉生涯学習振興課長）

職業的な能力の向上については、他の部局との連携を図りながら、計画の中に反映していけるか検討していきたいと思います。

○（萩原委員）

資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１４ページ「８　第６次計画の全体像と柱」の目標の文言で「新しい時代」のイメージについて、「ＳＤＧｓを実現する社会に向けた」等の具体的な文言を入れることはできないのでしょうか。

○（佐々木生涯学習部長）

頂いた意見を踏まえ、目標の文言については再度検討させていただきたいと思います。

○（岩崎委員）
資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１４ページ「８　第６次計画の全体像と柱」の「目指すべき姿」について、「学び」と「地域で活躍すること」の間のギャップがあると思いました。「学びを通してウェルビーイングを高める」といった表現の方が市民の方が気楽に学習することができるのかなと思いました。

○（阿久津委員）
資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１ページの生涯学習の理念に記載されている、教育基本法第３条の「その成果を適切に生かすことのできる社会の実現」がベースにあるので、「地域で活躍する」という文言が入ってくるのだと思います。

○（浅井委員）
教育基本法の成果を社会に生かすということは地域だけに限ったことではなく、本人が社会に生かせることも含まれると思います。

○（岩切会長）
審議会での各委員からの色々な意見を取り入れた結果、文言が整理できなくなっている部分もあるかと思います。今日の意見も含め、事務局の方で再度文言の整理をしていただければと思います。
資料１「第６次生涯学習推進計画施策骨子（案）」の１５ページにある、７つの基本施策については大変よくまとまっていると思います。一方で、３つの施策展開の方向性の文言が第５次生涯学習推進計画と同じなのですが、施策展開の方向性１の「学習活動のきっかけの提供」については、きっかけの提供のみではなく、支援するというように記載したり、施策展開の方向性２の「多様な学習機会の確保」については「充実を図る」と記載したりするような、第５次生涯学習推進計画と比べて、もう一歩踏み込んだ表現に出来ればよいのではないかと思います。
また、方向性３の「学びを生かしたコミュニティづくり」ですが、やはりここは「活力ある」という文言を入れた方がいいのではないかと思いますので、参考にしてください。
基本施策（２）の「子どもや若者が」という記載ですが、「子どもや若者をはじめ、あらゆる世代が」というように全体にかかるような記載にすればよいのではないかと思います。

○（小倉生涯学習振興課長）
事務局で検討させていただきます。ありがとうございます。

○（岩切会長）
他にご意見等ございますでしょうか。
ご意見も無いようなので、これで、議題を終了します。

議事後、伊藤節治委員から持ち込み資料の配付及び説明、事務局からの事務連絡を行った。

問い合せ先　千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課
電　　話　０４３－２４５－５９５３
ファックス　０４３－２４５－５９９２
電子メール　shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp